

梅の郷青谷地域活性化支援事業

自治体情報 京都市城陽市

人口 / 79,406人 標準財政規模 / 14,516百万円

担当課 市民経済環境部商工観光課

電話番号 直通 0774-56-4019

実施主体 城陽市

関連ホームページ <http://www.joyo-kankou.jp>

事業期間 平成21年度から

関係施策分類 ②、③

予算関連データ

総事業費：37,097千円

名称	所管	金額(千円)
京都府緊急雇用対策事業補助金(ふるさと雇用再生特別基金事業)	京都府	33,372
京都府緊急雇用対策事業補助金(重点分野雇用創出事業)	京都府	3,725

施策のポイント

地元住民や市民を中心にボランティアによる3つの部会活動が継続的に展開され、平均して1、2カ月に1回の会合、事業活動、イベント等を実施し、参加者の輪を広げながら部会ごとに地域活性化に向けた目標を推進している。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

平成21年6月に策定した城陽市観光振興計画の重点施策である「梅の郷青谷づくり」の実現及び平成24年3月に策定した城陽市梅の郷青谷整備計画推進のため、府緊急雇用対策事業補助金等を活用して青谷地域の自然を活かし、地域の発展に資する事業として青谷梅林の復興に向けた取り組みや、地域内を有機的に結ぶ散策道整備、青谷川周辺の里山環境づくり、青谷梅林の梅加工製品や新たな特産品開発に取り組む組織を設置し、その活動を支援する。

2. 取組の具体的内容

- 梅林部会では、梅林の復興と景観の維持のため、荒廃竹林の竹を伐採し、販売等その有効活用に取り組んでいる。
- 里山部会では、青谷川・親水公園周辺の自然を活かしながら、蛍が飛び交う里山をめざして葦刈りなど環境整備と散策道整備に取り組んでいる。また、青谷の自然に親しんでもらうため星空観察会やキノコ観察会にも取り組んでいる。
- 特産品部会では、梅をベースにした「城陽発」の特産品の開発と販路拡大に取り組んでいる。
- 部会全体の交流会議として年2回ワークショップを実施している。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

- 荒廃竹林の整備により生産梅林面積の減少に歯止めをかけ、新植の用地を確保し増加に向けて取り組みを強化する。
- 散策道の整備によって分散している観光資源(鴨谷の滝、一休温泉、親水公園、市辺梅林と中梅林)を有機的に結び付け、自然を生かした青谷地域全体の活性化を促進する。
- 梅加工品の特産品開発によって梅の需要を拡大するとともに付加価値を高め、観光梅林における観光資源の1つとして拡大・充実を図るとともに梅林農家の後継者づくりにつなげていく。

4. 現在までの実績・成果

- 荒廃竹林における竹伐採と竹炭づくりをすすめながら、竹伐採により拡張した広場に竹製ベンチを設置して堂山見晴台として開放している。
- 平成23年に散策道として松尾の小道を整備し、24年度は天山散策道整備の準備をすすめている。
- 梅加工品として梅ソフト、梅シャーベット、白玉小梅、梅クッキー等の特産品を開発し、観光協会で常時販売しているほか梅工房と協力して販売促進をすすめるとともに梅まつり会場でも好評を得ている。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

地元の理解と参加を促進するため部会の具体的な活動に関して取り組んでいる内容を紹介し、協議する場として年2回程度のワークショップを開催し、地元自治会の関係者にも参加をよびかけ質疑応答などを通じて理解を深めるとともに、広報チラシ「梅の郷青谷から」を発行し、青谷地域の自治会を通じて広く配布を行った。

6. 今後の課題と展開

部会活動はボランティアによって実施しているが、ボランティアへの連絡調整機能を果たすうえで事務所及び事務局スタッフの確保が必要である。平成24年度まで府補助金を活用して観光協会に委託してきた経費相当分を継続して確保する必要がある。